

SQUARE



No. 105

習志野市国際交流協会会報
スクウェア 第105号
2014(平成26)年4月1日

発行 習志野市国際交流協会
千葉県習志野市津田沼 5-12-12
サンロード津田沼 6F 〒275-0016
Tel&Fax 047-452-2650
http://www.nia08.com/
(Email)niasquare@m.jcnnet.jp

主な内容 CONTENTS

- 「バスハイク」房総 御宿ぐるり旅”が開催されました
- 感動を求め世界へ——大自然と人間に出会った青春一人旅
- 連載・あなたもできます「留学自分流」第3回現地情報を調べる

詳しい記事、およびカラー版が NIA ホームページからご覧になれます

海の花祭りや童謡、歴史、イチゴと充実の一日 “バスハイク”房総 御宿ぐるり旅” が開催されました

2月23日、恒例のバスハイクが開催されました。行き先は南房総の御宿です。タイや中国などの外国人 8名を含む総勢 39名で、にぎやかに出かけました。

当日はカラッと快晴。風もなくポカポカ。空も海も真っ青です。

この日は一日だけの「おんじゆく海の花祭り」の開催日でした。会場の「月の砂漠記念館前広場」には、地元の魚介類や野菜、花などの出店が並び、さまざまな楽しいイベントが繰り広げられていました。

私達も早速参加しました。郷土料理の「するもん汁」(イワシのつみれ汁)は無料配布ですがおいしく、体もホツと温まりました。95キロもの大きなカジキマグロの解体ショーはダイナミック。目で楽しんだ後は、解体されたマグロの刺身の無料配布に並び、新鮮な味を楽しみました。

魚や野菜などの賞品がもらえる「ボール投げゲーム」は参加費 500円。参加者には全員スプレーストック



95キロのカジキマグロ

の花束が渡され、ハッピーな気分になりました。その他、「エコ米つかみ取り」や、そば打ち実演販売など、盛りだくさんで回るのに

忙しいくらいの楽しいひとときでした。お祭り会場のある「月の砂漠記念館」も訪れて、「月の砂漠」が御宿海岸をモチーフに作られたことや、作詞者で御宿を愛した詩人・加藤まさる氏についてなど、いろいろ学びました。そして、海岸に立つ、王子と王女を乗せた2頭のラクダの「月の砂漠記念像」周辺をぶらぶらと散策しました。

その後「日・西・墨(日本・スペイン・メキシコ)三国交通発祥記念之碑」へ。1609年、フィリピンか



月の砂漠記念像前で

らメキシコへ向かったスペインの船が、岩和田海岸(御宿町)沖で遭難。漂着したスペイン人達を村人総出で助けたことを記念して建立された碑です。さらに「歴史民俗資料館」を見学。最後にイチゴ園を訪れてイチゴ摘み。甘～いイチゴをお土産に、みなさんニコニコ顔で帰路につきました。(報告 佐藤洋子)

辛さの中にもまろやかさのタイ料理 世界の料理教室が開催されました

第48回の世界の料理教室はタイの家庭料理でした。2月6日、寒い一日でしたが、ホットな料理教室が菊田公民館で開かれました。

講師の草間カンヤパクさんは来日10年で、日本語はお上手ですがさらに上達したいと NIA の日本語教室で学ばれています。普段からお料理が大好きで、タイの美味しい料理を多くの人に教えることができたらと思っているそうです。

今日のメニューはよくご存じの「グリーンカレー」と「トムヤムクン」、そしてイカのサラダ「ヤンプラム」でした。グリーンカレーはタイカレーとも呼ばれ、ココナツミルクの入った甘辛のカレーです。トムヤムクンは辛味と酸味と複雑な香りが特徴の、エビ入りスープでタ

イを代表するスープです。

タイ料理にはたくさんの香辛料が使われます。今回は9種類の香辛料が使われました。タイ料理独特の香りと辛さとココナツミルクの甘い香りが部屋全体に立ち込める中で、コクがあって辛さの中にもまろやかさがある絶品のお料理ができあがりしました。(報告 杉本裕子)



今回参加のみなさん

あなたもできます 「留学自分流」

小川翔平（広報青年部会）

第3回 現地情報を調べる

■各国のウェブサイトやイベントで

さて留学に行く国を決め、自分自身の目標をはっきりさせたら、あとは実際に留学準備を進めていくこととなります。具体的には、学校選び、授業料振込、航空券の購入、保険加入、ビザの取得等です。その手順についても今後紹介していきますが、並行して現地の情報を調べていく必要があります。

私が韓国へ留学した時は事前に何回か訪れたことがあったのですが、ほとんどの人が留学する土地へ行くのは実際に留学してからになるかと思えます。つまり初めての土地で、しかもいきなり一人で、新しい生活を始めることとなります。そのため、現地の情報収集がとても大事な事前準備となります。

具体的には、まず外務省が日本と国交のある国の基本情報をHP上にまとめているのでこれを調べます。各国の在日大使館のウェブサイトを見ても良いでしょう。また都内の大使館、また代々木公園で各国のイベントを開催していることもあるので、機会があれば出かけてみると面白いかもしれません。さらに10月や11月には、東京外国語大学や近隣の神田外国語大学の学園祭も開催されるので、そこは海外の友達を作ったり、現地での生活を体験して来た学生に会って情報収集をするのに絶好の機会となります。「衣・食・住」を中心に考えていくとシンプルに現地での生活を想像することができます。

■ファッションは気候や文化も考えて

まず「衣」についてですが、どのようにオシャレをするかが大事なのではなく、現地の気候を知る必要があるということです。たとえば、タイやシンガポールのような常夏の国に行くのにコートは何枚も持っていく必要はないですね。また、カナダやロシアなど、気温が氷点下何十度もするような極寒の地に行くのに薄着ばかりもっていきません。服は最初の生活に必要な分だけ持って行って、あとは気候に合わせて現地で調達するのがいいかもしれません。

ファッションの文化も国によってかなり異なるので、日本ではおしゃれに見えても、現地ではとても奇抜であったり、宗教的な理由であまり良くない印象を与えてしまうこともあります。そのような面についてもよく調べて留学に臨みましょう。

■食べることは止められない

次は留学先での「食」についてです。

留学に行くに当たって一番の心配事は何でしょう。多くの方が「言葉」の壁だと答えると思います。しかし、実はもっと大きな壁があります！それは「食」の壁です。日本にも多くの外国人が住んでいますが、彼らはみんな日本語が話せますか？日本語が話せなくても、ずっと日本で生活している人がみなさんの周りにはいないでしょうか。実は言葉が話せなくても、毎日通勤して、食べて、寝るくらいの日常生活はできてしまいます。

留學生活において、言葉の問題よりも学生を苦しめるのは食事の問題です。勉強を休むことはできますが、食べることを止めることはできません。辛い物が苦手なのに、留学先の料理が辛いものばかりであれば、1日3食のメニューを考えるのも大変です。太りたくないのに毎日ハンバーガーばかりだったり、逆に質素な味付けの料理ばかりだったりして飽きてしまうこともあるかもしれません。1年間お米が食べられない可能性もあります。私の知り合いでイギリスに留学していた人は、ほぼ毎日中華街で食事をしていました。

■行く前に、現地の味付けをトレーニング

留学に行く前に、まず渡航先の食生活についてよく知っておきましょう。幸い日本にはいろいろな国の料理屋があります。日本人向けに味付けが変えられているところも多いですが、機会があれば個人経営の、現地の味付けに忠実なお店に行くべきです。私も辛い食べ物が苦手で、韓国に行く前は毎日辛い食べ物を食べてトレーニングしておきました。おかげで留学に行ってから毎日韓国料理を食べることができて幸せでした。

現地での生活をより現実的、具体的に考えて、日々の生活でどのような問題が起きるのかをもう一度よく考えてみる必要があります。



タイのカオマンガイ（鳥飯）

